

続隠れ水俣病

／今後の焦点を聞く／

語る人

水俣市長

浮池 正基

—水俣病対策で、今後地元水俣市がやらなければならない問題がたくさんあると思うが、どんなことを考えているか。

＝＝＝＝＝＝
水俣方式コロニー

浮池 確かに仕事は多いが、大半は国、県におんぶされる仕事だ。その中で重症障害児(者)向けのコロニー建設には、市としてできるだけのことをしたい。国の予算もつき、こと中には国の見で着工する。既設のリハビリセンター、療育学級、特別養護老人ホームに増産施設が加われば、患者対策も一歩前進するよ。これらをひつくるめて「水俣方式コロニー」と呼んでいる。(身を乗り出し、ジェスチャーまじりの熱弁)

—経済的に決して楽ではない患者や家族のために、市独自の予算を組むことはできないか。訴訟からは、無利子で年二十万円の貸し付けをという要請もあったようだ。

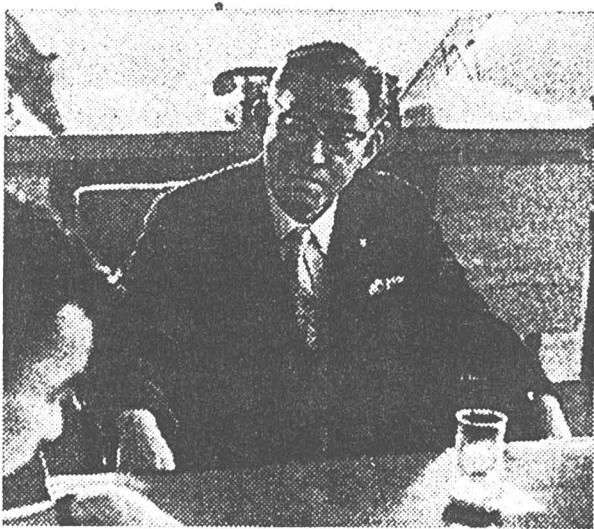
浮池 市独自の資金援助は、したい気持ちはやまやまだが、こんなチツボケ財政ではね。水俣病とは無関係の貧困家庭も多いことだし。市民感情の面からどうだろうか(とても無理だ、という表情。貸し付け金の話は、これを貸し付けでなく、れと言われるのは困るが、必要なら長期低利の国の世帯更生資金貸し付け制度(五十万円まで)もある。このほか生活保護による救済方法もある。市独自の融資は、訴訟派だけでなく、一任派からも要求があり、正直言つて頭が痛い。

—患者や家族をあれほど苦しめてきているのに、昨年まとまった一時金、年金(一任派)では将来の生活は不安ではないか。

浮池 水俣以外の人にはわからないことかもしれないが、こ

まずコロニー建設 一斉検診には万全態勢

これまで水俣病に対して、チツソはチツソなりに誠意を見せてきている。一時金、年金は、見方



真正面から水俣病問題と取り組むと語る浮池市長

によつては少ないかもしれないが、不当に安いとは思わない。

<8>

てほしい、とも要請していきたい。
—ところで、一斉検診の受け入れ準備をどう進めていくか。

＝＝＝＝＝＝
水銀汚染を追放

浮池 いづれから、どういふ形で一斉検診をするのかまだわからないが、地元としてはできるだけの受け入れ態勢を整える。一千万円はかかるだろう

的に考えているか。これはところが主体になってやっていくのか。

浮池 (よそではへドロと言ふんだが、水俣港のドベは約十年前に私が使い始めたんだ。いかにもドベッとした感じだろう)と前口上(そうだなあ、しゅんせつは、ドベをかくはんし、汚染地区が広がるので、漁協が反対するだろう。入鹿山教授の語では、浮き橋付近まで思い切つて埋め立てたがよいとのことだった。六万平方メートルになるだろうか。とても市には荷が重すぎる仕事だ。県になるべく早くやつてほしいといっているが、水俣病の水銀対策だから、国もテコ入れすべきだし、もちろんチツソも責任を負うべきだ。早くやつて水銀汚染のイメージを払しょくしたいよ。水俣病、水俣病と言われるのはウンザリだ、と言いたげ)

—公害追放、企業責任追及などの世論の盛り上がりで、水俣病の残された問題の解明も患者、住民サイドから一気に進められると思われるが、最近の市民運動のあり方をどう思うか。

＝＝＝＝＝＝
過疎と公害を調和

浮池 水俣病問題は戦艦にきている。真正面から取り組む人がふえたし、ひとりのようにタフに振舞うこともなくなつた。しかし、市民運動がいつの

間にか、チツソと一部団体のけん力になってしまったのは否定できない。一部の団体、特定の政党に片寄りすぎてはいないか(「こんなこと言っていないかな」と気にしながらの発言)。市民運動のワケをはずれているようにも思う。水俣病問題がこれまで盛り上がりつてきたのは、マスコミの功績が大きかった。今後、市としては、地方自治体の義務として、真正面から公害問題と取り組んでいく。一部に「企業と市の間がウンザリ」などと批判の声もあるようだが、私は堂々とやっていきたい。同じ市民が二派に分かれているのが現状だが、私はすべてにわたつて一任派、訴訟派の区別をいっさいせず、アツタケアに当たりたい。

—特定企業への依存から脱却し、公害のない新しい町づくりを考えないか。

浮池 人口はふえなくても「真つ青な空に、赤トンボがとび、水俣川にハエがいつぱいすむ」都市であらばいいと思う時もあるが、それはいかん。積極的な過疎対策を、とおしかりを受けたらする。結局工場誘致による開発、それも既存企業にたよりがちなのが現実だ。過疎対策と公害防止の徹底をうまく調和させていかなければならぬ。(おわり)